

# 1. 評価結果報告概要表

作成日 平成20年7月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270700505		
法人名	有限会社 みやび会		
事業所名	グループホーム いなほ		
所在地	〒859-5704 平戸市生月町山田免1074番地1 (電話) 0950-53-3012		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年7月8日	評価確定日	平成20年8月1日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 6人, 非常勤 9人,	常勤換算 14.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	水光熱費 3,040 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800円		

### (4) 利用者の概要( 4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	67歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平戸市立生月病院 ・ 生月船員福祉会館診療所 ・ 館浦歯科診療所
---------	----------------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム誕生には経営者である施設長が高校卒業時に【福祉の道】を目指されたことに起因する。大学の福祉課程を卒業され、佐賀県の障害者施設で経験を積み、そこで出会った言葉が、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」である。その頃、生月にはグループホームは無く、高齢者は元気で役割を持って在宅生活をされてる方が多く、徐々にニーズが高まったところで開設されている。ホーム名の「いなほ」は、「いつも なかよく ほがらかに」の頭文字を取ったものである。入居者・職員が島民という事もあり、顔なじみで共通の話題が多く、継続した環境の中で「笑顔」が絶えない共同生活を目指したサービスの提供に職員一丸となって取り組まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の改善計画シートを作成されており、真摯に受け止め事業所の能力に応じた対応策を検討・方向性を明確化されている。例えば、地域密着型サービスを意識した理念の見直し、入浴を楽しむことができる支援は、毎日でも入浴できることを入居者に説明するなど取り組み可能なことは直ぐに対応されている。又、同業者との交流を通じた向上及び、重度化や終末期に向けた方針の共有など環境又は能力などに作用されることについては方向性を検討されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を受審するに当たって、全職員一人ひとりが記入したのを施設長がまとめ、まとめたのを再度、各ユニット会議で討議し、自己評価票にまとめられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>市の担当者からサービス提供内容について具体的な説明の要請・指導を受けられていたので、2回目以降は、それに従ってサービス提供事例報告形式の運営推進会議を開催されている。したがって、参加された民生委員からは言葉の説明を要求されることが多く、運営推進会議の議題や進行に行き詰まりを感じられており、今回、自発的に会議運営の改善の取り組みを意思表示された。今後は、地域との交流促進やサービス向上に活かした取り組みを運営推進会議で展開・実践に繋げられることが期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>開設当初から、家族・入居者・職員が食卓を囲んでの食事を開催されている。その時の様子は翌月の「いなほ通信」に家族のコメントと一緒に掲載され、家族にも好評な取り組みである。今年は、家族からの申し出で職員と家族等で食事を作ることが計画されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との関わりは、「いなほ通信」の配布と地域ボランティアの受け入れ、近隣の保育園や学校等の施設行事への参加などである。特に、地域ボランティアの方からは継続した関わりでの取り組みを要望されている。又、毎月発行されるデイサービス・グループホーム合同の「いなほ通信」は「読みやすい」と地域や家族の方々に好評である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生月島内で唯一のグループホームで、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の精神に従い、地域のニーズを意識しながら、運営理念と介護理念の2本柱を掲げて、目標の具現化に向けて事業所一丸となった取り組みに繋がられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの主任を中心に現場職員が毎月の目標を話し合いで決定し、目標達成に向けて職員一人ひとりが毎日の目標を個人ノートに記入・発表し、日々の評価・反省を記録している。毎月1回の全体会議までに提出し、施設長より必要に応じてコメントなどあり、経営者でもある施設長と職員の協働が窺える。目標設定は時期的又は、運営的なものである。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関わりは、「いなほ通信」の配布と地域ボランティアの受け入れ、近隣の保育園や学校などの施設行事への参加などである。特に、地域ボランティアの方からは継続した関わりでの取り組みを要望されている。又、毎月発行されるディサービス、グループホーム合同の「いなほ通信」は、「読みやすい」と地域や家族の方に好評である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受審するにあたって、全職員一人ひとりが記入したのを施設長がまとめて、再度、各ユニット会議で討議し自己評価票にまとめられている。又、昨年度の改善計画シートも作成されており、評価を真摯に受け止め事業所の能力に応じた対応策を検討し、方向性を明確化されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者からサービス提供内容について具体的説明の要請・指導を受けられていたもので、2回目以降は、それに従ったサービス提供事例報告形式の運営推進会議を開催されている。したがって、参加された民生委員からは言葉の説明を要求されることが多く、運営推進会議の議題や進行に行き詰まりを感じられており、今回、自発的に会議運営の改善の取り組みを意思表示された。		運営推進会議の開催要領を話し合いを通して、客観的に把握されたこともあり、今後は、地域との交流促進やサービス向上に活かす取り組みを運営推進会議で展開・実践に繋がることが期待される。

グループホーム いなほ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平戸市に地域密着型サービスが4事業所あり、平戸市との連携に向けた協議会組織作りを提案したり、わからない事は相談するなど、担当者に積極的なアクションを起こされているが課題解決までには至っていない。		介護保険制度の仕組みを踏まえた取り組みが期待される。又、市町村との連携で、市と共にサービスの質の向上に貢献されると更に良いのではないかと。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の支払いや預かり金の残金が少なくなったときは連絡を取り、その時に入居者の様子や連絡事項等を伝えられており、変化時などは随時、報告をされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設当初から、家族・入居者・職員が食卓を囲んでの食事を開催されている。その時の様子は翌月の「いなほ通信」に家族のコメントと一緒に掲載し、家族にも好評な取り組みである。今年は、家族からの申し出で職員と家族等で食事を作ることが計画されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成16年1ユニットからのスタート以来、職員の異動、離職はなかったが、今年、職員を半数ずつ入れ替えたとこ一人の入居者が一人の職員に対してのみ反応を示された。これまで依存していたことを自立行動されるようになり、他の職員には従来の対応を望まれた。施設長の判断で、入居者の能力を活かした対応を他の職員にも徹底され、入居者の自立度の見直しにつながったというエピソードを話していただいた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きやすい職場を目指した取り組みとして(個人ノート)を導入されている。職員は、個人ノートに各自の毎日の目標・経過・反省、同僚や入居者との関わり方についての悩み、運営等についての意見等を書いて月に1度施設長に提出している。特に目標についての一連の記載は、自己研鑽にも繋がっており、職員の意識も引き上げられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のあるグループホームの新任職員を2日間受け入れて実務研修をされている。現在までに協議会組織作りを目指して行動されているが賛同には至っておらず苦慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	職員も入居者も生月島内の方が殆どで、顔なじみの方が多いこともあり、共通性に富んでいることがサービス提供の際の円滑化に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者の思いに共感・理解のための取り組みとして、入居者の希望に沿って職員を配置されることもある。定期的又は必要時の随時のアセスメントシートへの書き込みをされており、入居者の状態把握のもと、入居者と職員が共同生活を営まれている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	【サイン・変化に気づける力、予測できる力を向上して欲しい】これは、施設長が職員に、常に伝えている言葉である。個別生活記録に(本人行動・言動(気になる)、職員対応、特記事項)欄が設けてあり、見せていただいた記録には、ほぼ毎日記載されており、職員の向上心が窺える。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	担当職員がユニット会議で介護計画(案)を提出し、会議で検討して介護計画の作成がなされている。又、気づきノートやヒヤリハットノートなどからも入居者に係わる情報は介護計画に反映されている。個別生活記録は、介護計画が日々モニタリングされており、全職員が介護計画を把握したサービスの提供に繋がっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	基本的に3ヶ月に1回の見直しをされており、変化時はアセスメントシートなどの更新もされ、入居者の現状に即した介護計画の見直しに努められている。又、個人記録は入居者の状態変化が著しいときはリアルタイムでの記録を心がけられ、常態の生活に戻ったら通常の個別生活記録様式に記入されるなど書式を使い分けした記録も計画の見直しに反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	車椅子利用等の入居者が家族と外出される時は、ホームの特殊車両を提供され、必要であれば職員も配置されている。又、入院時には家族に代わって洗濯物の受け取りや身の回りの世話等状況や要望に応じた対応をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域性から協力医がかかりつけ医の入居者がほとんどである。専門医や希望の病院受診の際は、情報提供書を添えて受診の支援に繋がれおり、医療関係の連携も図られている。受診後の報告も家族と職員間で交わされており、関係者間の報告・連絡・相談体制のもと適切な医療受診支援に繋がられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には病院と連携をとりながら、家族や病院等とその都度話し合いの場をもたれ、ホームとしてできる限りのかかわりを持って対応されているが最終的には病院での看取りに委ねられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定の第18条(秘密保持)で個人情報の利用目的については、特定ではあるが入居時に説明し同意を得られている。又、職員の入居者に対する接遇態度は【従】に重きを置かれている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホーム生活の流れの中で、入居者の心身の状況に応じた柔軟な対応が入居者にゆとりを提供している。		

グループホーム いなほ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日本の風習に従った入居者の食事マナーで、食事中は静かに食されているが、箸を置かれてからは会話を楽しまれていた。職員の見守り・声かけ支援も入居者の食事の様子を観察しながら最小限にとどめられており、雰囲気・環境を崩さない関わり方をされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日沸かされており、2日に1度の入浴支援をされている。又、入居者から「今日は、朝風呂に入りたい」の要望があれば可能な限り対応され、入居者の満足に繋がられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	運営理念「できる力は奪わない。できない事は要求しない。埋もれた力を引き出す。」が、反映された支援に努められている。訪問した日の食後の後片付けやカード遊びなどの場面で、入居者の表情から自信や活気、張り合いが感じられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の頻度、外出先、職員数など不可能を理由に正当化されること無く、先ずは、入居者の希望・意向を踏まえた可能な限りの支援を心がけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に、日中は玄関に施錠されていないが、職員数が足りてないときなど一時的に施錠されることもある。その場合は、外部の人に施錠を知らせる貼り紙をして対応されている。入居者の状態・様子が把握できる場所で記録したり、持ち場を離れるときは、声かけなどで他の職員と連携が取れるように心がけられ、安全面にも配慮した取り組みである。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団との連携で避難訓練なども定期的に取り組まれている。自然災害に対しても入居者のライフラインを確保するための連携施設の確保などを意識した取り組みをされている。今後は、ガイドラインに沿ったホーム独自の災害対策など書面化に向けた取り組みを検討されている。		

グループホーム いなほ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の心身の状況に応じて、必要時にはかかりつけ 医院の管理栄養士に、食事提供内容の写真などを見て もらい、指導・助言を仰がれている。職員の個人ノートに は、食事提供に関する工夫など日々研鑽した内容が書 き込まれており、入居者にとって食事提供が如何に大切 か、理解されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自然採光を上手に取り入れられており、壁紙なども 白に近い明るい色調で開放感と気品が感じられる。入居者の 季節に応じた作品や家族などが描いた油絵や手工芸品なども ホールの装飾として彩を添えている。集いや独居の場所も適 宜設置されており、昼食後のひとときをおしゃべりで楽しめたり、 人の気配を感じながら独りで寛がれたり、穏やかな環境の 中でそれぞれの時間を満喫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見せていただいた居室は、入居者一人ひとりの性格や 個性、こだわりを大事にされ、既存の調度品に融合させ た中にもその人の心身状態に合わせた居室作りがされ ている。入居者の「自分の部屋がゆっくり出来て、落ち着 よ」の言葉からも窺い知ることができる。		